

● これからの活動 ●

※活動予定は変動の可能性がございます。最新の情報は人間科学研究所のホームページをご参照ください。

ワークショップ

「赤ちゃん観察会」

日 時：2024年3月2日(土) 10:00～15:00
※出入り自由
場 所：甲南大学18号館
担 当：西尾 千尋（人間科学研究所兼任研究員）
講 師：稲継 美保・宮武 亜季
(パフォーマンスプロジェクト 居間 theater)

甲南アトリエ

「触覚で作るアート」

日 時：2024年3月16日(土) 10:00～12:00
場 所：甲南大学18号館3階 講演室
企 画：服部 正（人間科学研究所兼任研究員）
講 師：光島 貴之（美術家）
亀井 友美（チーム光島スタッフ）
定 員：先着15名（参加無料）

子育てライブラリー②

ワークショップ（キッズフェスティバルとコラボ）

日 時：2024年3月10日(日)
10:00～12:00/13:00～15:00
場 所：i commons
担 当：北川 恵（人間科学研究所兼任研究員）
岩本 沙耶佳（人間科学研究所客員研究員）
講 師：未定

シンポジウム

「子育ての社会化」と「家庭的」養護の狭間で

日 時：2024年2月21日(水) 14:00～16:00
場 所：Zoomによるオンライン開催
企 画：森 茂起
講 師：藤間 公太（京都大学大学院）
益田 啓裕（追手門学院大学大学院）

ライフプラン教育シンポジウム

日 時：2024年2月29日(木) 15:30～
場 所：Zoomによるオンライン開催
企 画：森 茂起

第5回丸鬼周造記念シンポジウム「愛と人生の価値」

日 時：2024年3月18日(月) 14:00～16:00
場 所：甲南大学18号館3階 講演室
企 画：吉川 孝（人間科学研究所研究員）
講 師：源 河亨（九州大学）
森 功次（大妻女子大学）

発行年月日 2024年3月1日

編集後記

今年度は、計画の活動が大半を占め、新型コロナウイルス流行前の体制を取り戻して来られたのではないかと思います。オンラインでの研究会や動画配信についても、コロナ禍の対面活動の代替のようなネガティブな意味合いではなく、その利便性を活かして今後も継続していく形になるのではないのでしょうか。今号が私の担当する最後のニュースレターとなりました。今後も KIHs の活動が次の方々へ受け継がれていくことを祈っております。短い間ではありましたが、皆様大変お世話になりました。

今年度のニュースレターをお届けします。

人間科学研究所では、2020年度より開始した研究事業「Phase6：過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」を2024年度も継続、2025年度の完了を目指すこととなりました。この事業の中では、『子ども・子育て』に関する研究・実践「トラウマ、人生史、記憶を対象にした学際的研究」「人間科学の哲学的・思想的基盤を検討と芸術学における実践と研究」の3つを主題として活動を行ってきました。これまで外部資金の研究期間や所長の交代時期に合わせて「Phase」を区切っていましたが、KONAN U. VISION 2025 と同期させるとともに、新たな兼任研究員の先生方も加わったことで、人間科学研究所としての新たな体制を模索していくこととなりました。新体制の確立を目指すとともに、今後とも研究、教育、地域連携、世代間交流に貢献していく所存です。

今号は、本年度の6件の活動（開催予定の6件を除く）について、企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただきました。ご味読ください。





活動報告

●2023年度の活動

公開講座

第14回 お父さん・お母さんのための子育て応援講座 「子どもの安心基地になるために」

日 時：2023年9月7日（木）11：00～11：40

場 所：甲南大学18号館3階講演室

オンデマンド配信期間：2023年9月14日（木）～2023年9月28日（木）

講 師：北川 恵（甲南大学文学部教授／公認心理師・臨床心理士）

スタッフ：岩本 沙耶佳（甲南大学人間科学研究所客員研究員／公認心理師・臨床心理士）

甲南大学学部生7名、保育士等2名

参 加 者：参加者：49名

（内 訳：対面講座22名（大人14名、子ども8名（託児6名／保護者同室2名）

オンデマンド配信27名（甲南大学学生11名、一般16名）

子どもの発達にとって大切なアタッチメントの視点を、保護者の皆様にわかりやすくお伝えするための講座です。子どもは、お父さん・お母さんが「安心基地」になってくれることで、不安なときは信頼できる人を頼りながら、自分でいるような挑戦をすることができ

る、そうした関係を築くうえで大切なポイントをお伝えしました。また、当日の不都合や遠方の方のために、講座を録画し、オンデマンド配信も行いました。参加者からは、「子育てで大切なポイントや普段意識していなかったことを学べて勉強になった」「子どもの安心と安全について考えることができた」といった感想を頂きました。来年度も子育て応援講座の開催を予定していますので、ぜひご参加ください。（報告者：北川 恵・岩本 沙耶佳）



子育てライブラリー2023

日 時：2023年9月7日（木）10：30～11:00

場 所：甲南大学18号館3階共同研究室Ⅰ

実 施 者：岩本 沙耶佳（甲南大学人間科学研究所客員研究員／公認心理師・臨床心理士）

北川 恵（甲南大学文学部教授／公認心理師・臨床心理士）

甲南大学学部生7名

読み聞かせのボランティア団体「おはなしの会ひばり」4名

参 加 者：22名（保護者13名、子ども9名）

人間科学研究所では子育て支援の一環として、絵本や紙芝居、育児関連の本などを地域の皆様に公開するイベント「子育てライブラリー」を開催しています。今年度の第1回目は、「第14回お父さん・お母さんのための子育て応援講座」と同日に開催し、ボランティア団体「おはなしの会ひばり」の皆様に読み聞かせをしていただきました。参加者からは、「音と絵本が一体になっていて楽しい読み聞かせだった」「音楽や手作りの絵本など、楽しい要素がたくさんあってよかった」といった感想を頂きました。（報告者：岩本 沙耶佳・北川 恵）



世代間交流体験

大学生による親へのインタビュー

実施担当者：北川 恵（甲南大学文学部教授）

岩本 沙耶佳（人間科学研究所客員研究員）

参 加 者：母親2名、本学学生5名（「心理地域援助」受講学生）

大学生が働き・育てることへの多様なモデルに触れながら、ライフプランを描く機会となるように、人間科学研究所では大学生が乳幼児や親と交流する機会を設けています。その一つとして、2018年度から、大学生が、子育て中の親に「働くことと育てること」についての経験を尋ねるインタビューを行ってきました。

インタビューは、働くこと、育てること、それらのバランスについて質問をしていますが、2023年度の参加学生は、「子どもの将来について楽しみなこと・不安なこと」という質問項目に注目し、2021年度以降に13名の母親たちが語ってくれた多様な回答を表1のとおり、カテゴリーに分類しました。



表1. 子育て中の母親へのインタビュー

質問項目 「子どもの将来について」で語られた内容のカテゴリー分類と度数

N=13, () は延べ人数

楽しみなこと：

どんな子に育つか（7）

一緒に楽しいことを共有できること（3）

全部が楽しみ（2）

子どもにとって楽しく過ごせる環境になっていること（2）

不安なこと：

周囲との関わり（4）

子どもの心身の発達・健康（4）

社会情勢（3）

アイデンティティ確立（2）

子どもの相談相手になれるかどうか（2）

インタビューとカテゴリー分類を行った学生は次のような感想を報告してくれました。

◆ インタビューを行い、子どもの成長を気にかけている親が多く、中には孫のことまで考えている人もいたことが印象的でした。将来の社会情勢を心配する声もあり、子どものことが大切だからこそそんなことに不安を感じるのかなと思いました。

たくさんの母親の意見を分類して、全く同じ意見がでなかったことがおもしろかったです。考え方や価値観は人それぞれ異なっていることを改めて学びました。色んな意見が出たので分類する作業が大変でした。色んな意見が出ましたが、お母さん全員が共通して子どもに愛情を持って子育てをしていることも学びました。最も印象に残ったことは、自分の人生は自分で支える必要があるということです。結婚したからといってパートナーがずっと一緒に居てくれるわけではないし、両親が面倒をみてくれるわけでもないで、出産後も自分のことは自分で養えるくらいは経済力をつけたいなと思いました。（北村 咲香）

◆ 母親へのインタビューを行い、その回答を分類・整理していくプロセスの中で一番感じたのは、子育ての苦勞と子どもへの大きな愛情でした。私が思っていた以上に「お母さん」でいることは大変

で忙しく、苦勞を重ねていることを知りました。それでも母親が頑張り続けられる理由はやはり「子どもへの愛情」がとても大きいと感じました。子どもの将来について、全部が楽しみだ、可能性は無限大だと答えるお母さんたちの言葉に、本当に我が子の存在は、原動力になる大きな存在だと感じました。

また、子育ては一人では出来ず、周りの人に助けを求めることの大切さも学びました。私も将来もし子どもができて、子育てがうまくいかない時は、自分を責めずに周りの大人や地域の子育て支援などを頼るようにしたいと思います。（西峪 美希）

◆ インタビューでは、母親一人一人の子育ての悩みや喜びから、今に至った人生の経緯まで、一人の人間としての様子がとてもよく伝わってきて、「母親も一人の人間なんだな」ということを実感する良い機会になりました。

カテゴリー分けの際に過去のインタビュー資料を見ることで、様々な生き方を知ることができました。私たちが社会に出た時を考えるうえで参考になったし、苦勞や努力は必要でも、人生は自分次第で何にでもなり、どうとでも変えられるのかもしれない、と不安だった将来に少し安心を感じることができました。自分の母親の苦悩や葛藤についても想像することができました。また、過去のインタビューで、子どもの将来について、今後の世の中を憂える声が多かったことは印象的でした。子どもにかかる負担を心配したり、日本の平和について不安に感じたりする声があり、意外でした。でも確かに、世の中や社会という曖昧で不特定多数のものに我が子が苦しめられる、という未来は親だけではどうすることもできない場合があると考ええると、親としてはとても心苦しいのかもしれないと想像できました。（江見 かほり）

甲南アトリエ

第14回 親子孫子で楽しむアート 『本藍で染め物体験！』

実 施 日：2023年7月29日（土）

企 画：内藤 あかね（甲南大学人間科学研究所／客員特別研究員）

講 師：棕田 三佳（美術家）

参 加 者：21名

5組の親子が集まり、講師の棕田三佳さんによるご指導の下、本藍を使ってブロック染めや型染を行った。植物由来のインド産藍を使用することによって、化学染料にはない、独特の匂いや色の変化が生じる。短時間の制作過程でも、参加者の皆さんにはフルに五感を使った体験をしていただけたと思う。

予め用意しておいた型紙やスタンプを使って布地を染める人が多かったが、構成をどうするかは作り手次第なので、日本の古典柄をアレンジして季節感を出そうとした大人もいれば、スポンジやクッキー型で動物柄や小花を滲まないように一つ一つ丁寧に染めて、職人顔負けの表情で好きな世界をつくりあげる子どももいた。オリジナルの型をカッターで彫って、納得がいく作品をつくらうと努力した人もいれば、制作中に想像が膨らんで、



作品の世界観を大人たちに語ってくれる子どももいた。

どのご家族にとっても、染め物を介して協働し、日常とは少し異なるコミュニケーションをする機会になったように思う。

（報告者：内藤 あかね）

公開講座

「親は子供にどの程度責任を負うのか ——親になることの現象学」

実 施 日：2023年9月23日（祝・土）

企 画：吉川 孝（甲南大学文学部教授）

講 師：小手川 正二郎（國學院大学准教授）

参 加 者：9名

これまでの「子どもの哲学」の関連講座では、子どもとともに哲学をする企画を実践をしてきました。今回は趣向を変えて、講師として國學院大学の小手川正二郎氏を招いて、哲学の観点から子どもというテーマについて考える講座を開催しました。小手川氏はフランスの哲学者レヴィナスの研究を基盤にしながら、『現実を解きほぐすための哲学』（トランスビュー、2020年）では、現象学の観点から、性差、人種、親子関係、移民、動物などのトピックを考察しています。講演「親は子供にどの程度責任を負うのかー親になることの現象学」では、子供に対する親の責任がときに虐待にもなりうることも視野に入れながら、親子関係についての最新の研究の報告がなされました。学生や一般参加者からも、かつて子どもであった者や子どもをもつ親という立場から質問や意見が述べられ、議論が盛り上がりました。（報告者：吉田 孝）



公開研究会

「学校適応に関する心理学的研究」

実 施 日：2023年11月23日（祝・木）13：00～15：00

企 画：谷口 あや（甲南大学人間科学研究所博士研究員）

講 師：水野 君平（北海道教育大学旭川校 准教授）

参 加 者：12名

北海道教育大学旭川校の水野君平先生を講師にお招きし、学校適応に関する研究知見や地域の学校との協働についての公開研究会をオンラインで開催しました。

初めに、学級という日本に独自の側面を持ち合わせている学校環境についてご説明いただき、その中で生じる「スクールカースト」の問題について研究知見をご紹介いただきました。スクールカーストについては、単なる生徒やグループの地位の問題として捉えるのではなく、学級の構造から問題を捉える必要があるとのことでした。

最後に、学校での研究を行う上での地域や学校との繋がりについてもご紹介いただきました。研究者が学校現場からデータを収奪するような構造にならないよう、研究成果を報告するだけではなく、学校現場における研修等においても活用できる形にするための努力や工夫が求められ、これらが研究と実践をつなぐために重要な点となります。

本研究会では、水野先生のこれまでの研究知見だけではなく、これからの学校適応を広く見据えてお話をいただきました。参加者の方々からも盛んに質問があり、非常に有意義な研究会となりました。（報告者：谷口 あや）